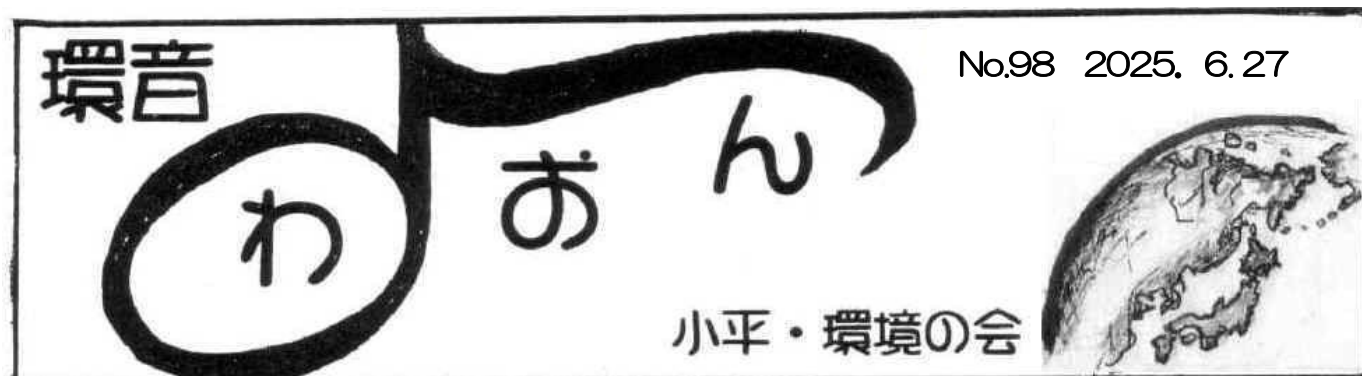




## 人工芝はマイクロプラスチックの発生源… 中央公園に人工芝を敷きつめる計画は見直しを！ ～請願署名にご協力ください～

最初に人工芝の問題に取り組んだのは 2022 年、小川西グラウンドの人工芝化中止を求める要望書を小林市長に面談して提出しました。その後、小川西グラウンドの計画は頓挫、中央グラウンドの改修に伴い、サッカーフィールドを人工芝化する計画が持ち上がりました。私たちはパブリックコメントを提出し、ヒアリングで意見を述べ、文化スポーツ課に要望や質問書を出すなど働きかけを続けましたが、結局全て「聞きおくだけ」でした。

あろうことか市は、サッカーフィールドの隣の多目的広場（今は野球場）まで人工芝にするという事業者側の提案をそのまま受け入れました。今年 2 月 1 日の中央公園グラウンドを含む公園の整備・改修に関する説明会では、グラウンドの利用方法や人工芝化に関する質問や反対意見が多く出され紛糾しました。この時の参加者などが中心となり、「中央公園グラウンドと多目的エリアの人工芝化に関する意見交換会を開催するよう求めます」という要望書を 2 月 19 日に市長と面談し提出、4 月に入って担当課と話し合う機会もありましたが、「3 月末に市長決済が出たので、もう変えられません」というのが結論でした。

背景には、長年サッカー協会など利用者から、人工芝化の強い要望が出されていることがあります。人工芝なら雨が降ってもすぐ使えるといった利便性のためのようです。しかし、私たちは人工芝には多くの問題があり、利用者の健康にも害があると考えています。何より、環境に配慮すべき自治体が、マイクロプラスチックの最大の発生源とも言える人工芝をどんどん広げるといえるのはおかしくないでしょうか？ 少なくとも多目的広場については、市民が特に要望したわけではなく、子どもも遊べるスペースになるということなので、人工芝化はやめてほしいと思います。

こうしたことを踏まえ、今年度はまだ計画段階であることから、急遽、小平市議会に請願を出すことになりました。環境の会のメンバーも入る「中央公園改修に市民の声を届ける会」（愛称：中央公園 LOVERS）として、6 月 12 日に請願「中央公園グラウンド改修計画について意見を聞く機会を設けることと多目的エリアの人工芝化見直しを求めることについて」を提出しました。

### <請願事項>

1 中央公園グラウンド改修計画、特に市民の自由な利用の可能性、多目的エリアの人工芝化について、現段階の詳細な説明を行い、広く市民の意見を聞く機会を早急に設け、市民の意見を反映するよう努めてください。

2 中央公園グラウンドに導入予定の人工芝は、マイクロプラスチックの大きな発生源であり、環境や人体に有害な物質も含まれていることから、少なくとも多目的エリアについては人工芝ではなく、環境や人の健康に優しい天然芝や草地にすることを検討してください。

### 目 次

|                              |
|------------------------------|
| 中央公園に人工芝を敷きつめる計画は見直しを！・・・1～2 |
| 市内井戸の PFAS 調査と国・都への意見書提出・・・3 |
| 小平と小金井の新ごみ焼却施設を見学して・・・4      |
| 忘れない 3.11 展 資源循環を再び！・・・・・・5  |
| 環境フェスとリユース食器の復活/編集後記・・・6     |

準備期間が短かったので、紹介議員は水口かずえさん、さとう悦子さん、鈴木だいちさんの3人となり、賛成多数を取れるかはかなり難しい情勢ですが、各会派を回って説明、話し合いを試みたいと思います。

ぜひ、署名で応援してください！ 署名用紙は、会報に同封する他、環境の会のホームページからもダウンロードできます。<https://tom2rd.sakura.ne.jp/kodairakankyonokai/>

8月26日(火)の生活文教委員会で審議される予定なので、傍聴もよろしくお願いいたします。(深澤)



栗岡理子さん講演会 2025年2月16日

## 「人工芝からも PFAS? !

### —ほんとうにいいの? 中央公園グラウンドの人工芝化—

環境ジャーナリストの栗岡さんは、ブックレット『人工芝はなぜこわい?』(日本消費者連盟)を出されたばかりで、最新の研究データに基づき、詳しく、そしてわかりやすく人工芝の環境や健康への影響について話されました。

人工芝は紫外線や雨風にさらされ、踏まれるうちに葉がちぎれて風に飛ばされ、川に流されます。河川や海に流出したマイクロプラスチックを調べると、その1/4が人工芝で最多でした((株)ピリカ、2020年度調査)。マイクロプラは川や海の生物に有害だけでなく、人間の心臓、肺など様々な臓器、脳や胎児からも見つかり、病気のリスクを高めています。人工芝そのものからも環境ホルモンや重金属、PAHs(多環芳香族炭化水素)などの有害物質が検出されており、新しい製品でも有害なPFAS(有機フッ素化合物)を含んでいる可能性があり、現在調査中とのこと。また、人工芝の流出対策として側溝にフィルターをつけたとしても、捕捉できる芝片は損耗量の5%未満に過ぎない、10年ほどで張り替える必要のある人工芝はリサイクルも焼却も難しい処理困難物としてほとんど埋め立てられている、よく劣化した状態で防草シート等として再利用されるが、まさにマイクロプラ発生源ではないか、というお話にも驚きました。最近子供の遊び場などに増えたゴムチップ舗装の有害性も指摘されていました。

さらに地球温暖化(人工芝の素材であるポリエチレンやポリプロピレンは日光により劣化すると、CO<sub>2</sub>の28倍もの温室効果があるメタンなどのガスを放出する)、生物多様性(プラスチックで覆われた土にミミズは生きられない)、利用者目線(天然芝に比べてケガをしやすい、夏は60度以上になり熱中症の危険)から言っても到底受け入れがたい人工芝・・・アメリカの自治体ではPFASを含む人工芝を禁止する動きが広がり、ヨーロッパでも天然芝に回帰するサッカー場が増えているのに対し、日本では人工芝を奨励するような助成金が出されているとか(スポーツ振興くじの助成に環境配慮を求める要望書を、減プラスチック社会を実現するNGOネットワークおよび賛同36団体が2024年に提出し、人工芝の問題点を指摘)。

また、当会役員で小平市議会議員の水口かずえさんから、グラウンドの人工芝化が進められた経緯、人工芝が天然芝より有利とした市のコスト比較に廃棄費用が入っていないなどの問題点について説明がありました。

どんなに市に働きかけても人工芝化を止められない中、少しでも多くの市民に人工芝の問題点を知ってほしい、考えてほしいと企画したのがこの講演会でした。美園地域センターの会場は40人超の参加者で埋まり、大変好評で

した。栗岡さんのお話は、請願の作成、また今後の市議会の審議でも大変参考になるものでした。栗岡さんの新刊『プロBLEM Q&A 人工芝問題入門 [どうするマイクロプラスチック公害]』(緑風出版、2025.3)も注目です!(深澤)



### ロングパイル人工芝

- ・ロングパイル人工芝：サッカー場や野球場などで使用
- ・弾力性をもたせるためと、長い芝を立たせるためにゴムチップを充填。ゴムチップは流出しやすいマイクロプラスチック

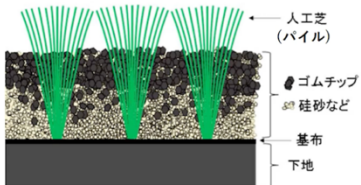


図. 人工芝の模式図



黒ゴムチップ

↑ロングパイル人工芝  
出典：国立医薬品食品衛生研究所



## 市内井戸の PFAS 調査と国・都への意見書提出

5月14日、PFAS 汚染問題を考える会・小平のメンバーで小平市の環境政策課を訪問し、井戸水の PFAS 検査結果などを聞きました。

### ◎市内の井戸の PFAS 検査結果

市が昨年度に行った市内の井戸水の PFOS、PFOA、PFHxS の含有量の調査結果は、市 HP に掲載されています。<https://www.city.kodaira.tokyo.jp/kurashi/086/086804.html>

それによると、調査した 34 本の井戸のうち半数近い 16 本の井戸で、PFOS+PFOA の含有量が暫定指針値の 50ng/L を超えていました。最も高い井戸は 230ng/L でした。34 本の井戸をどうやって選んだのかを聞くと、市報等で募集し、62 本の井戸所有者から検査の申し込みがあったが、予算の制約から 34 本を選んだ。飲用している（あるいはしていた）という井戸（28 本）を優先的に選び、残りは地域的に偏らないように選んだとのことでした。50ng/L を超えた井戸の所有者には、飲用しないように伝えたそうです。検査を申し込んだが調査できなかった井戸もあり、市は今年度も継続的に調査する費用を盛り込んだ補正予算案を提出しました。1 本あたりの調査費用は 38,000 円だったそうで、費用の 3 分の 2 は都から補助されます。

### ◎市内の飲用水の汚染状況

東京都水道局は、蛇口から採水した水道水と浄水所・給水所等（浄水施設）の原水及び浄水の「有機フッ素化合物検出状況」を HP で公表しています。昨年度の検査結果を見ると、小平市の小川給水所の給水栓水（蛇口）の水質検査結果は、今年 1～3 月で定量下限値 5ng/L 以下となっています。

小平市内のほとんどの地域に上水を供給している小川給水所では、令和 2（2020）年 7 月に給水栓水の PFOS+PFOA が 64ng/L となり、一部の井戸の運用停止などを行いました。その後、令和 4

（2022）年 9 月から令和 5（2023）年 10 月まで、小川給水所のすべての井戸が停止され、河川水に切り替えられましたが、11 月から再開され、昨年 8 月からは再びすべての井戸が停止されています。多摩地域では、区部と違って地下水を飲用水としてきたため、区部よりもおいしい水でしたが、本来おいしいはずの地下水を飲めなくなっているのはとても残念です。

### ◎小平市、国立市、小金井市から都と国に意見書を提出

昨年 6 月小平市議会で、PFAS 汚染問題を考える会が出した請願「有害性が指摘されている一部有機フッ素化合物（PFAS）による地下水汚染の原因究明を求めることについて」が採択され、市は、PFOS 等の流出源の特定に向け、PFOS 等を保管及び使用していた在日米軍基地及び民間事業者などの施設や工場を調査するよう、都内の 25 市と連携して国や都に働きかけることが求められました。

これを受けて、小平市は、国や都に横田基地内で発生した PFOS 等の漏出の水への影響について調査し公表すること、PFOS 等の漏出について米側から新たな情報が得られたときなどには情報を提供すること、横田基地以外の施設においても PFOS 等を含有する物質の保管や使用、漏出について調査すること、などを求める要望書を今年 4 月 25 日に環境大臣、防衛大臣、東京都知事にあてて提出しました。

環境政策課によると、これらの要望書の共同提出を都内 25 市に呼びかけたが、同意したのは国立市と小金井市のみだったそうです。要望書を提出した数日後に、防衛省から、PFOS 等の漏出について米側からの情報提供等があったときには、要望書を提出した市に通知する、との返答があったそうです。市民が出した請願がきっかけとなり、国に市民からの要望が多少でも伝わったことはうれしく思います。（和）



訪問を終えた PFAS 汚染問題を考える会・小平

# 小平と小金井の新ごみ焼却施設を見学して、ごみの行方を考える

去る令和7年3月29日（土）雨の降る肌寒い13時に西武拝島線「東大和市駅」改札口に集合して、数人で小平・村山・大和衛生組合の新ごみ焼却施設建設現場の見学に向かった。

日常では、①「燃やすごみ」②「燃やさないごみ」③「粗大ごみ」④「資源物 プラスチック製容器包装」⑤「資源物 ペットボトル」⑥「その他、資源物 ビン・缶・古布類・ふとん・金属製鍋等・スプレー缶・水銀体温計・ライター・電池・蛍光管」「剪定枝」⑦「紙」等に分け、所定の袋等に入れ、決められた日時に玄関前等に出して終わり、という意識です。回収車が持ち帰った後がどうなるのかを、知る機会になりました。（新焼却炉は10月に本格稼働する予定）



蒸気タービン。排熱を蒸気に変換して発電する装置は巨大！電気の3割は施設内で利用し、残りは売却する。

各々の行き先：

1. 「燃やすごみ」 ➡ 小平・村山・大和衛生組合焼却施設（小平市中島町）  
➡ 有価物は資源化業者、焼却灰 ➡ 東京たま広域資源循環組合（日の出町の最終処分場）
2. 「燃やさないごみ」 ➡ 小平・村山・大和衛生組合不燃・粗大ごみ処理施設 ➡ 有価物は資源化業者、破碎残渣は同施設内で焼却
3. 「粗大ごみ」 ➡ 不燃・粗大ごみ処理施設 ➡ 有価物は資源化業者、破碎残渣は同施設内で焼却
4. 「資源物 プラスチック製容器包装」 ➡ 小平・村山・大和衛生組合資源物中間処理施設・エコプラザスリーハーモニー（東大和市桜が丘） ➡ 資源化業者
5. 「資源物 ペットボトル」 ➡ エコプラザスリーハーモニー ➡ 資源化業者
6. 「その他の資源物 ビン・缶・古布類・ふとん・金属製鍋等・スプレー缶・水銀体温計・ライター・電池・蛍光管」「剪定枝」 ➡ 小平市リサイクルセンター（小平市小川東町） ➡ 資源化業者
7. 「紙」 ➡ 資源化業者

続いて6月13日（金）にお隣の小金井市資源物処理施設（メタウォーターサステナブルパークこがねい）を見学。ここで気になったのが、④「資源物 プラスチック製容器包装」処理過程にある「人手による選別作業」で、分けられた異物（乾電池、小型家電品、鉄線、汚れの酷い容器等）の多さでした。説明の方に尋ねると、「施設の説明係であり、ごみに関するご質問は市役所をお願いします」と。

ネットを検索してみて、江戸川区の状況が分かりました。資源として回収した容器包装プラスチックは、公益財団法人日本容器包装リサイクル協会による「パール品質調査」が年1回実施され、回収した容器包装プラスチックの汚れ具合や、異物の混入割合を調べます。この調査で江戸川区は10年以上連続でAランクとのこと。回収した容器包装プラスチックには、回収量に対して6.3%（平成31年度）もの異物が混入しております。取り除いた中には乾電池やライター、スプレー缶等危険が生ずるものも混入しています。

小平市のプラスチック製容器包装の不適正な分別の割合は、可燃物9.7%（生ごみ1.1%、その他紙類0.7%、汚れたプラスチック製容器包装1.7%、主として15cm未満のプラスチック製品5.3%、その他0.9%）、不燃物4.0%（主として15cm以上のプラスチック製品3.7%、その他0.3%）で、製品プラスチックが合計9.1%となっている（令和5年度）。

プラスチック製容器包装と（容器包装ではない）製品プラスチックは別物という認識を今一度持ちましょう。

しかし、令和3年度と比較すると1.6%改善されています。とはいえ、小平市のプラスチック製容器包装のごみの量は1,795トンとべらぼうな数値です。10リットル袋に入る量は0.35kg、20リットル袋は0.53kg、40リットル袋は0.8kgと少ないわけですから、いったい私たちはどれだけの体積の容器包装プラを排出しているのでしょうか！日々の生活でもちょっとした注意の積み重ねが我々に出来ることです。（大森）



小平の不燃・粗大ごみ処理施設でも、充電電池入り製品などの異物や、資源物を手選別していました。



2025 年 3 月 11 日～16 日、中央公民館で 14 回目の「忘れない 3.11 展」が開かれ、環境の会は今回、原発事故で中止されたままの落ち葉の活用を再開してはどうか、という提案を掲げました。以下、展示の一部を紹介します。（深澤）

小平・環境の会は、3.11 以降、**畑や自宅の庭の土、落ち葉の放射能測定**を行ってきました。それは、落ち葉を集めて堆肥をつくり、畑で使用するという資源循環を推奨し、実践してきたからです。

2011 年以降の計測値を見ると、畑の土、庭の土ともに、事故後から大きく減り、落ち葉のセシウム量も 2017 年には 0 となりました。

農林水産省は 3.11 以降、17 都県に対して新たな腐葉土堆肥の生産・出荷及び施用を控えるよう指導していましたが、2020 年 8 月 20 日の通知で、17 都県でも**腐葉土堆肥を生産・出荷できる**よう指針をまとめました。



東京都によると、農家が敷地内の落ち葉堆肥を生産・使用する場合は、過去に 2 度、放射能検査をして基準値以下であれば問題ないが、農家以外の行政等が落ち葉堆肥をつくる場合は、その都度**放射能検査をする必要がある**とのこと。す。

また、小平市では現在、収集した剪定枝は生ごみ堆肥の製造に使われているが、**落ち葉は燃やすごみ**になっているそうです。

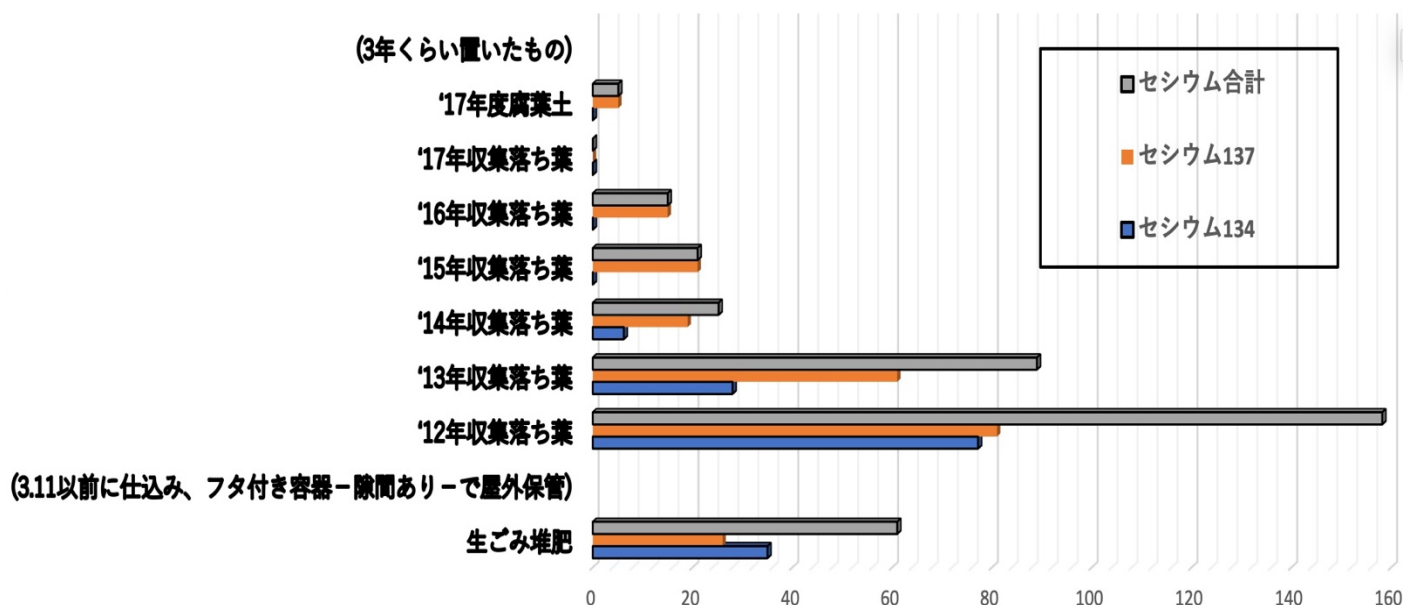
小平市では以前、落ち葉の堆肥化を積極的に進めていました。

ごみ・環境ビジョン 21 が発行する「ごみっと・SUN」の 2010 年 9 月 22 日発行号に、「東京・小平市発**落ち葉のリサイクル袋で有機農業を応援**」という記事が掲載されていました。それによると、小平市は 1998 年度から、市民が集めた落ち葉を清掃事務所に持ってきてもらい、必要な人に渡すという落ち葉のリサイクルを始め、2008 年度からは「落ち葉のリサイクル袋」をつくって貸し出す事業も始めました。自治会や学校などで落ち葉が 20 袋以上集まった場合は JA に連絡し、農家が直接そこに取りに行くこともできたそうです。2009 年度の実績は、1492 袋を貸し出し、1 袋が何回も使われるため袋利用数は 3771 袋だったとのこと。

私たち環境の会も、その頃は玉川上水の**落ち葉を集めて農家に渡す活動**に協力していました。

2011 年 3 月、福島原発事故によって放出された大量の放射性物質は、私たちが集めていた落ち葉や、作っていた堆肥を汚染し、**資源循環の活動は中止**に追い込まれました。でも、放射能測定結果からもわかるように、14 年経ち、**落ち葉や土の汚染は大きく低下**しました。

こうした現状を踏まえ、東京都も小平市も有機農業の振興のため、**再び落ち葉や堆肥が活用**できるよう明確に政策転換するべき時ではないでしょうか？



## 環境フェスとリユース食器の復活

去る5月11日（日）小平市中央公園にて「こだいらグリーン環境ファスティバル 2025」が開催されました。

小平・環境の会は、昨年に引き続き、マイクロプラスチッククイズやエコグッズ（ヘチマたわしやセルローススポンジ等）の販売を行いました。それと同時に、まさしく中央公園に敷かれようとしてい



る「人工芝」問題について、問題提起をさせていただきました。「中央公園グラウンド改修の問題点を知っていますか？」というポスターやチラシでアピールしました。

小平市は、私たちが市長に申し入れを行ったにも関わらず、そして何度もその危険性を訴えて来たにも関わらず、「市民の意見を聞いた結果」として、人工芝を敷くことを決定してしまいました。しかも、その必要はないと思われる旧野球場（多目的エリア）にまで、人工芝を敷く予定でいます。私たち市民団体がブースを出していた、まさにその場所です。「せめて多目的エリアには人工芝を敷かせたく

くない」という思いも込めて、小平市に請願を出し、この決定を覆したいと願っています。

また、コロナが流行った以前に実行されていた「リユース食器」利用の復活についても、コロナ終息後、何度も申し入れてきましたが、今回の環境フェスでも実現できず、焼きそばなどで大量のプラ容器が使い捨てられてしまいました。これについては、担当者が変わってしまっていて、リユース食器の利用自体が引き継ぎされていないことが解り、担当者への申し入れと共に、近隣市でのリサイクル食器の利用について見学などを考えて行きたいと思っています。（島）

### 総会報告

さる6月7日、小平・環境の会の2025年度総会を中央公民館で開催しました。

ご参加くださった皆さん、ありがとうございました。

会員の皆さんには総会報告を同封しております。

なお、今年度の会費納入がまだの方には振替用紙を同封しておりますので、引き続き会の活動を支援してくださいませよう、よろしくお願いいたします。



#### 小平・環境の会

年会費 会員(個人) 1000 円  
賛助会員(個人・団体) 5000 円  
郵便振替：口座番号 00150-3-514947  
加入者名 小平・環境の会

西武信用金庫小平支店

口座名：小平・環境の会  
118517(普通預金)

#### 編集後記

つい先日、夫を亡くした。

一人が亡くなると、これほどまでに些末な事柄に追われることになるのかと実感している最中である。

実際に亡くしてみて思うのは、葬儀も何もかも、全て実感が伴わないうちに取り行われ、終わって行くのだと知らされたことだ。

「悲しむ暇もない」とはまさにその通りで、これを皆さんが行って来たのかと思うと、頭が下がる。

こうして月日は流れて行き、気が付いた時には数ヶ月が経っているのだろう。

私も全てが終わるころには、夫を亡くしたことさえ、忘れていないのかもしれない…。(K)